

マネージメント情報

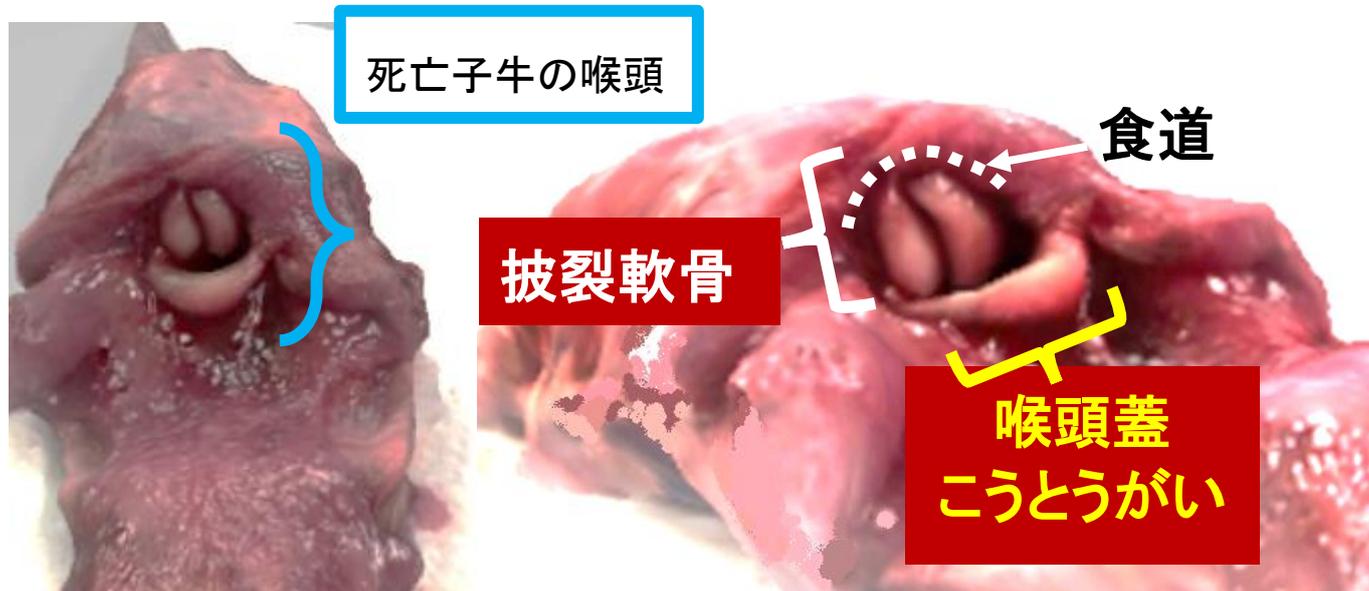
2024年8月



この記事は、機関誌や日常の出来事の中からわれわれが注目した話題を皆様に提供するものです。
ご質問、ご要望などなんでもお寄せくだされば、今後テーマとして取り上げたいと思います。

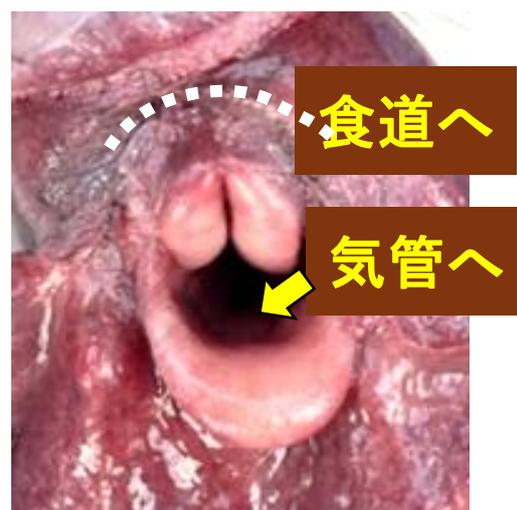
喉頭の解剖と嚥下(えんげ)の仕組み

喉頭(こうとう)は、いわゆる「のどぼとけ」といわれる器官で、気管と食道を分けています。鼻や口から取り込まれた空気は気管へ、飲食物は食道へと振り分けられます(反射)。

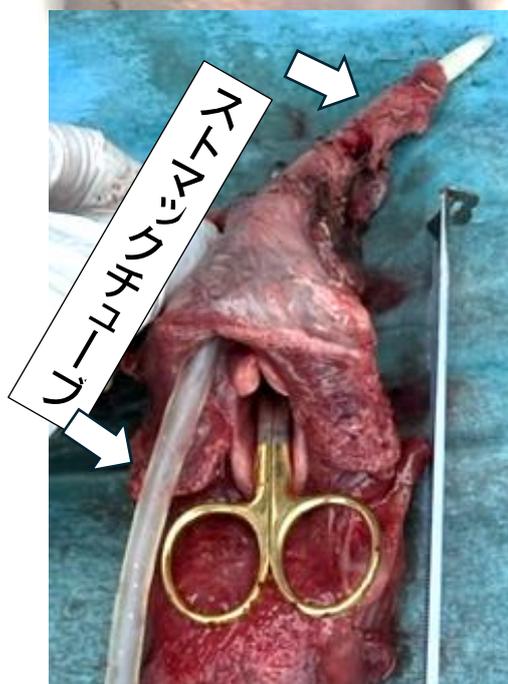


舌の付け根にはこのような構造物があります。

呼吸し、空気を気管から肺に送り込むとき、このように喉頭蓋(こうとうがい)が開いています。2つの披裂軟骨(ひれつなんこつ)の向こうに声帯・気管・肺があります。そして、ミルクなど胃に何かを入れるときは、喉頭蓋が披裂軟骨にかぶさってふさがります。まさに「蓋(ふた)」になるわけです。この一連の動きは「反射」で無理をしなければ自然に起こります。



舌



左の写真では、ハサミが気管に入っており、スタマックチューブが食道に入っています。このハサミのところにチューブを入れてはいけません。「誤嚥性肺炎」になってしまいます。

スタマックチューブを入れる際に気を付けることは、

★嚥下(えんげ: 飲み込むこと)し易くさせましょう。首を延ばしすぎては苦しくなり、嚥下しづらくなります。

★チューブを無理に押し込まない！ ねじ込まない！

★食道に入ったことを確かめる(首の左側にチューブの断端を触るはず)ことを励行しましょう！！

現在、「気管に入らないスタマックチューブ」開発中です～

【乳汁検査まとめ】

はじめに

先月に引き続き、2024年1月~6月において弊社にて実施した乳汁検査の結果をお伝えしたいと思います。

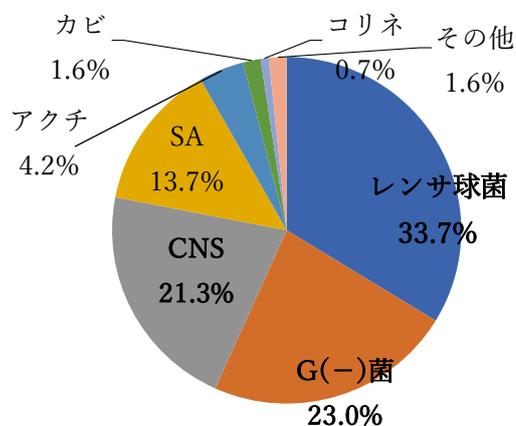
検査頭数は809頭、検査分房数は1614分房で、菌の生えた分房数は789分房、菌の検出されなかった分房数は825分房でした(それぞれ重複を含む)。

略語・薬品名対応表

略語	注射薬	軟膏
AM	アンピシリン	—
Cz	セファゾリン注	セファメジン・セファゾリン
K	カナマイシン	タイニーPK
ERFX	バイトリル 10%	—
ST	トリオプリン	—
T	OTC 注	OTC 軟膏

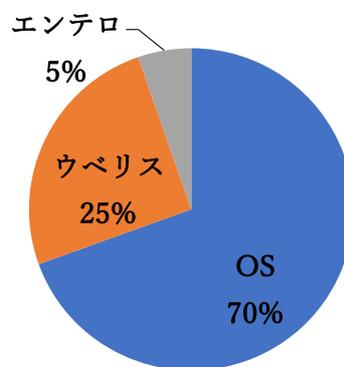
原因菌種割合

菌が検出された検体の中での雑菌を除く原因菌種割合を以下に示します。最多はレンサ球菌(※1)で、2番目に多かったのはG(-)菌(※2)でした。次いでCNS、SAと続きます。レンサ球菌、G(-)菌、CNS、SAで全体の約90%を占める結果となりました。



グラフ1 原因菌種割合

- ※1 レンサ球菌には OS、ウベリス、エンテロコッカスを含む
- ※2 G(-)菌には大腸菌、その他の大腸菌群、クレブシエラ、緑膿菌を含む
- ※ アルカノバクテリウムをアクチ、コリネバクテリウムをコリネ、酵母様真菌をカビと表記



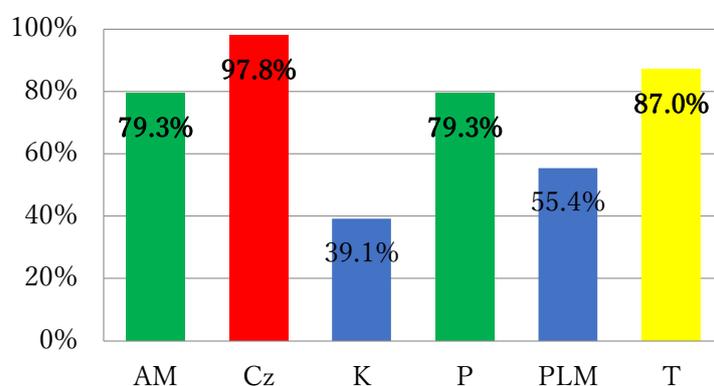
グラフ2 レンサ球菌割合

※エンテロコッカスをエンテロと表記

グラフ1にてレンサ球菌としたものの内訳です。レンサ球菌の発生分房数は226でした。OSが157分房で、割合は70%となり最多でした。ウベリスは57分房で、割合は25%でした。エンテロコッカスは12分房で、割合は5%でした。

感受性割合

SA (92)



グラフ3 SA 感受性割合

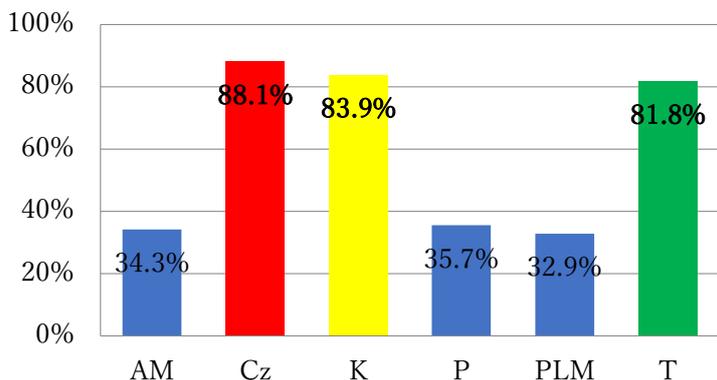
感受性割合の上位3つの薬品は Cz(セファメジン・セファゾリン)、T (OTC 注・軟膏) AM (アンピシリン)



Total Herd Management Service

リン)、P(ペニシリン・ニューサルマイ)となりました。Cz(セファメジン・セファゾリン)は97.8%、T(OTC注・軟膏)も87.0%と高い感受性割合となりました。

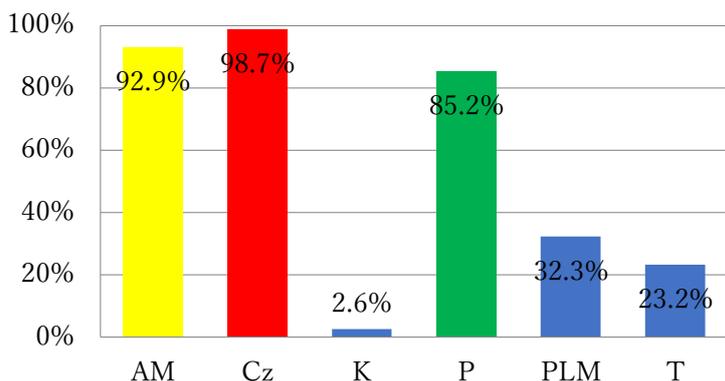
CNS (143)



グラフ4 CNS感受性割合

CNS感受性割合の上位3つの薬品はCz(セファメジン・セファゾリン)、K(カナマイシン・タイニーPK)、T(OTC注・軟膏)となりました。Cz(セファメジン・セファゾリン)、K(カナマイシン・タイニーPK)はSAと同様の結果になりましたが、感受性割合はどちらもSAよりは低くなっています。

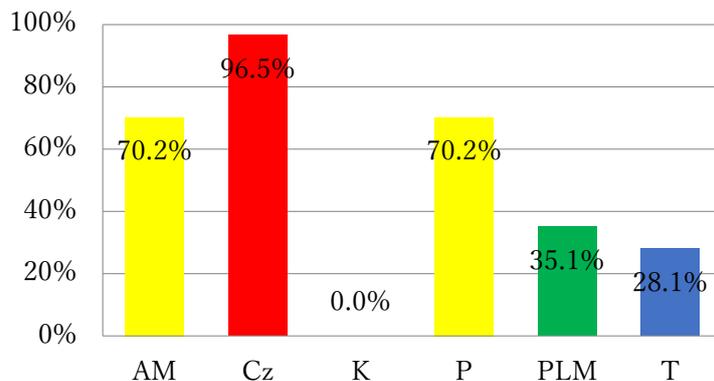
OS(155)



グラフ5 OS感受性割合

OSの感受性割合はCz(セファメジン・セファゾリン)、AM(アンピシリン)、P(ペニシリン・ニューサルマイ)がどれも85%以上となりました。T(OTC注・軟膏)は30%以下となりました。

ウベリス (57)



グラフ6 ウベリス感受性割合

ウベリスの感受性割合はCz(セファメジン・セファゾリン)、AM(アンピシリン)、P(ペニシリン・ニューサルマイ)となり、OSと同様の結果となりました。CzはOS同様95%以上の感受性ですが、AM(アンピシリン)、P(ペニシリン・ニューサルマイ)は共に70.2%となり、OSよりも低い結果となりました。

最後に

グラム陽性菌に対しては菌種に関わらずCz(セファメジン・セファゾリン)が効果的であるという結果になりました。グラム陰性菌で感受性割合の高かったK(カナマイシン・タイニーPK)はCNS以外では低い結果となりました。そのためグラム陽性菌か、グラム陰性菌かの判断は重要になります。

暑く、湿気の多い日が続いており、乳房炎が増加すると思われます。なかなか治癒しない乳房炎に対しては早い段階での乳汁検査をおすすめします。どうしても乳房炎が増加する季節ですので、無駄なく早急な治療を目指しましょう。

富田大祐



Total Herd Management Service

—ご挨拶—

6月から授精課に入社いたしました、大島未稀(おおしま みき)と申します。
この場をお借りしまして、自己紹介させていただきます。



名前:大島未稀(おおしま みき)
出身地:青森県むつ市
経歴:酪農学園大学循環農学類(2021年卒業)
→(一社)家畜改良事業団

出身は青森県むつ市というところで、俳優の松山ケンイチの出身地であり海や山が綺麗な自然豊かな地域です。幼いころから動物が好きで、一番好きな動物はイルカですが気が付いたら牛に興味を持つようになり、酪農学園大学に進学をしました。

大学では動物生殖工学研究室に所属し、体外受精をメインで学んでいました。昨年入社した佐野さんとは大学の同期になります。

大学卒業後は(一社)家畜改良事業団に入団しました。福勝鶴や福之鶴を繋養している団体です。(残念ながら福之姫・福勝鶴は実物を見たことはありません…)事業団では業務課に所属し、前橋種雄牛センターに2年、東海近畿事業所に1年の合計3年間で東京・茨城・愛知・三重の営業を担当していました。ラボの方々が作って下さった F1 卵も販売させていただきました。営業している中で、もっと農家さんの近くで役に立つ仕事がしたいと思い転職を決意し、昨年11月に実習させていただきました。一日でも早くお役に立てるように頑張ります。よろしくお願ひ致します。